

## 2. 防犯パトロールの進め方

### 1 防犯パトロールの心構えと方法

#### 防犯パトロールの心構え

##### □気楽に

気負わず、生活の一部として気楽に取り組む姿勢が大切です。

##### □気長に

気長にやり続けることによって顔見知りが増え、やがて犯罪の起こりにくい環境が作られていきます。

##### □危険なく

パトロールは犯罪を未然に防ぐことが目的です。犯罪に遭遇した場合は、速やかに警察に通報しましょう。また交通事故にも注意しましょう。

#### パトロールの種類

##### ●徒歩によるチームパトロール

→数人でチームを作り、地域の見守りや危険箇所の発見などを目的として、徒歩でパトロールします。

##### ●自動車によるパトロール

→「防犯パトロール中」などと書いたステッカーを張って地域を巡回します。

##### ●子どもの登下校を見守るパトロール

→子どもの登下校時に、通学路に沿って見守ります。大きな交差点や交通事故の多い個所などを重点にしてパトロールします。

##### ●ウォーキングパトロール

→パトロールも兼ねて、健康作りのために毎朝行うウォーキングをしながら、地域を巡回するパトロールです。

##### ●わんわんパトロール

→犬の散歩を兼ねて、地域の巡回をするパトロールです。他の目的と兼ねることで、継続して取り組むことができます。

(参考：防犯パトロールの手引き(社)広島県防犯連合会広島県警察本部)

### 2 110番通報をするときのポイント

事件や事故を目撃した場合、気を落ち着かせて110番通報をします。その際、次のように内容を聞かれるので適切に答えるようにしましょう。

- ・通報の内容が「事件」なのか「事故」なのか、またその内容→「泥棒」や「交通事故」など通報内容を的確に伝えます。
- ・事件や事故が発生した場所と時間→場所は目標となる建物や地名を伝えます。
- ・被害の様子や事故の様子(事件の場合、犯人の特徴と逃げた方向)→けが人の有無や救急車やレッカー車が必要あるか、また事故車の車種ナンバー等を伝えます。
- ・通報者であるあなたのこと→名前、住所、電話番号などを伝えます。(通報者の個人情報保護されています。)

(参考：防犯パトロールの手引き(社)広島県防犯連合会広島県警察本部)

### 3 青色回転灯パトロールについて

本書 p.11 の※を参照。

## 2 防犯パトロールの進め方

防犯パトロールを進めるに当たっては、まず自治会やPTAなどの地域に居住する方に活動の趣旨や目的を説明し、有志を募ります。参加者の規模に応じて班を編成し、リーダーを決めます。その際、単独でパトロールすることのないように、余裕あるメンバーの数で班を編成することが大切です。班の数に応じて、パトロールの経路や方法、頻度などを決め、実施計画を策定します。その際、警察署の生活安全課や地域の学校などと連携を取り合って計画を進めます。公民館や地域の学校を防犯パトロール活動の拠点として確保することも必要です。

パトロールに持参する物は、メモ帳、日誌、反射テープ、のぼり、タスキや腕章、懐中電灯、赤色灯、防犯ブザーやホイッスル、デジタルカメラ、携帯電話などです。これらのうち、タスキや腕章などは警察署や防犯協会から貸与されるかもしれませんが事前に相談しておきます。反射テープはパトロール中に交通事故に遭わないための装備です。派手な色のジャンパーや帽子など目立つ服装でパトロールすることも犯罪者にパトロールの存在を知らせ、防犯につながる有効な手段です。

#### パトロールの必需品の例

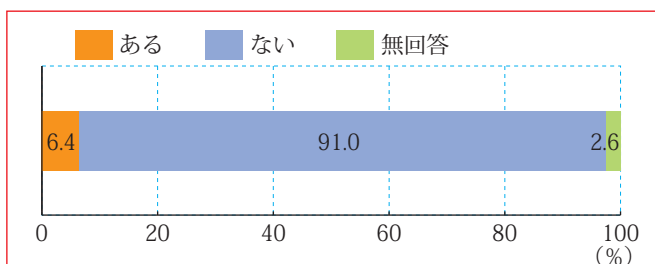


無理のない継続的な活動を!

## 4 活動中に危害に遭った（遭いそうになった）ことがあるか

団体の構成員が活動中に危害に遭った（遭いそうになった）ことがあるかについて質問したところ、91.0%の団体が「危害に遭った（遭いそうになった）ことがない」と答えたのに対し、6.4%の団体が「危害に遭った（遭いそうになった）ことがある」と答えている。

実際に身の危険にさらされた例は必ずしも多くは



※全国で活動中の防犯ボランティア団体で、警察が把握しているもののうち、地域住民を主たる構成員とし、防犯パトロールを活動内容としている1,440団体の代表者に対して、活動を行う上でのニーズや警察・地域の反応などについてアンケートを行い、1,159団体（80.5%）から回答を得た。

ないものの、活動における不安感を裏付ける実例もあることがうかがえる。

（出典：平成16年度警察白書）

## 5 パトロールにあたっての注意事項

### ●防犯知識を身に付ける

→警察が行う防犯教室などに参加して、正しい防犯知識を身に付けましょう。また、警察のホームページから防犯に関する情報を入手することも大切です。

### ●パトロールは犯罪の未然防止を念頭に

→防犯パトロールは犯人を捕まえるのが目的ではなく、未然に防ぐことが目的です。地域を見守る様子を、なるべく目立つように犯罪者に見せることが大切です。万一犯罪の場面に遭遇しても必要以上に実力行使するのは避け、直ちに警察に連絡しましょう。

### ●交通事故には注意しましょう

→パトロールの際には、なるべく目立つ服装や腕章、タスキなどを着用し、交通事故には十分注意します。

### ●声かけはあいさつから

→パトロールする人が気軽にあいさつすることで地域の連帯感が生まれます。特に犯罪者は地域の人に声を掛けられることを極端に嫌います。顔を見られたと感じて犯行を断念する場面が多いのです。

### ●少年への対応は健全育成の観点から

→少年たちがたむろしてたばこを吸っているような場面に遭遇しても、頭ごなしに叱るのではなく、愛情を持って優しく諭すことが必要です。

### ●プライバシーを尊重し個人情報報を守る

→パトロール中に知り得た他人のプライバシーや個人情報はむやみに口外せず、秘密を守ることが求められます。

### ●パトロール後の情報交換を密に

→パトロール中に見つけた危険箇所の状況や防犯灯の破損、不審者の様子などをパトロール後に話し合い、必要があれば関係機関に連絡を取り合うことが必要です。

（参考：防犯パトロールの手引き（社）広島県防犯連合会広島県警察本部、「自主防犯ボランティア地域防犯パトロールで安心安全なまちづくり」）

## 5

- 規準表 (41a) 自主防犯活動に対する適切な指導・助言を行うことができる。  
 (41b) 防犯パトロールを企画・立案し、防犯の実践に取り組むことができる。
- ねらい
- ①防犯パトロール（「子ども見守り隊」など）の目的や効果、留意点について説明できる。
  - ②パトロール中に事件が発生した場合の適切な対処方法を説明できる。
  - ③防犯ボランティアのジャンパーや腕章などを身につけることの長所・短所を説明できる。
  - ④防犯ボランティアのジャンパーや腕章などの道具を適切に管理できる。



### パトロールの留意点

パトロールは徒歩または自転車で行いますが、ただ漫然と歩くのではなく、次の点に注意しながらパトロールします。

- ①通学路に異常がないか。
- ②防犯灯の整備が必要な場所の有無。
- ③不良少年のたまり場になってないか。
- ④公園や遊び場に異常がないか。
- ⑤留守宅やその周辺に不審者や不審な車がないか。
- ⑥廃屋、空き家に異常がないか。
- ⑦ゴミの不法投棄や落書きがないか。
- ⑧河川や見通しの悪い交差点など危険な箇所はないか。



また、パトロールの途中では積極的に挨拶や声かけを行います。防犯パトロールは未然に犯罪を防ぐのが目的ですので、万一、犯罪の場面に遭遇した場合は無理をせずに、すぐに警察に通報します。

パトロールが終われば日誌にその様子を記載し、情報交換を行います。また、活動の様子を地域に広報し、必要に応じて警察や学校へ情報の提供を行います。

### ビデオ教材 (ビデオ→ 防犯パトロールの進め方)

※ビデオの活動を参考にパトロールのポイントについてまとめてみましょう。

### Column

#### パトロールグッズの管理に注意!!

地域で活動が根付き、ボランティア団体への信頼が増すほど団体名の入ったジャンパー、腕章等が悪用されたときのリスクは高くなります。定期的に個数の把握を行い、しっかりと管理しましょう。

### ■つかんでおこう!

警察署 Web サイト検索システムなどを利用して、防犯パトロールの事例を調べてみましょう。

<http://www.kodomo-bouhan.jp/G4/>